

グローバル・スコープ

外交官として数多くの国家指導者を見てきたが、トランプ米大統領ほど自己中心的な人物は知らない。トランプ氏がインタビュに対し「自分を規律するのは法律ではない。自分の道義心だ」と言った意味が、最近分かるようになってきた。要するに、トランプ氏には通常人が持つような道義心はなく、トランプ氏の道義心は「自分ファースト」ということだと解すべきだろう。

トランプ大統領と中間選挙

トランプ氏は11月に迫った中間選挙で共和党の勝利を手にするため、あらゆる手段を講じようとするだろう（ブルームバーグ、イメージ）



画を載せることにこだわるのは、自身を唯一無二の存在としたいか

らだろう。ベネズエラのマドウロ大統領を自国の麻薬法で訴追し、ベネズエラに軍事行動を起こし大統領を拘束し米国の裁判所で裁くというのも、まさにトランプ氏には国際法は

レームダック化が濃厚

眼中になく、自らが嫌う麻薬を撲滅するという道義心にならうからだろう。

イラン戦争については、ベネズエラの成功を繰り返したいという想いがあつたのだろうが、トランプ氏が理解しようとしていないのは民族感情とか、ペルシャ文化の体現者としてのイランの誇りであり、米軍の絶対的力を妄信した結果の膠着ではないだろうか。

イランがホルムズ海峡を事実上閉鎖したのに対し、米軍が逆封鎖に至ったが、世界経済の受ける深刻な悪影響などトランプ氏の脳裏にはなく、米国の石油価格が高騰しだして初めて、このまま放置するわけにはいかないと考えたのだろう。米国に損害を与えるわけにはいかないと道義心



日本総合研究所
国際戦略研究所
特別顧問

田中均

はわずかに残っている。2020年1月の議会乱入事件のような結果を招かないことを祈るが、トランプ氏の行動は予見しがたい面がある。トランプ氏による大統領弾劾だ。イラン戦争が長引けば長引くほどインフレ懸念は強まり、下院だけでなく上院でも共和党の多数が失われる見通しが出てくる。

上院の3分の2の賛成で弾劾が成立するとは思えないが、少なくとも、トランプ氏が政治的にレームダック化する可能性は高いだろう。（第2・4水曜日に掲載）